

学習の森

だより

No. 37



平成24年度「文化財愛護ポスター」優秀作品(敬称略) 竹鼻 脩真 (松井田南中1年)

『安中の1000万回』

ふるさと人物伝⑪

林遊謙(大野九郎兵衛)

学習の森 文化財係

林遊謙は、江戸中期に磯部の神明にあった養学院という寺に住みつき近所の子どもにも読み書きを教えていた浪人です。磯部には、遊謙を「忠臣蔵」の逐電家老として有名な大野九郎兵衛であるとする伝承が残っています。伝承では、遊謙が亡くなったあと村人が、遊謙の遺品の中から大石内蔵助の書状を発見して、遊謙が実は大野九郎兵衛であったことを知ったと伝えられています。また大野九郎兵衛は、芝居の中で描かれているような卑怯な人物ではなく、筆頭家老の大石内蔵助がまだ討ちに失敗した場合に備えて、第二の刺客として吉良上野介の領地(人見村)に近い磯部に潜伏していたのだといえます。しかし大石ら赤穂四十七士が見事あだ討ち本懐を遂げたので、逐電家老の汚名を甘んじて受け入れたというのです。不思議なことに遊謙の墓は、東上磯部の松岸寺(写真)と下磯部の普門寺にあり、普門寺の墓には寛延四年(一七五二)の年号が刻まれています。もしこれが没年だとすれば、大野九郎兵衛は、浅野内匠頭が刃傷事件を起こした元禄十四年(一七〇二)に

は、初老であったと言われていますから百歳を超える長寿ということになってしまいます。また通説では、大野九郎兵衛はあだ討ち後、変名を使って京都に隠棲し数年を経ずして亡くなったとされていますから遊謙が九郎兵衛だったという説は、甚だ疑問ではあります。しかし磯部周辺には、吉良上野介の領地(人見村に二六〇石、中野谷村に四〇石、藤岡の白石に七〇〇石)が多く、秋間には、四十七士を弔った忠僕元助の伝承が有ります。本市は、忠臣蔵に縁の深い土地柄と言えるでしょう。

また、遊謙に限らず、禄を失った武士が寺子屋の師匠になることはめずらしいことではありませんでした。江戸時代の庶民は、村で生活する場合も奉公に出る場合も読み書きそろばんは必要なので、寺子屋の師匠は、社会に出ていくために必要な教育を授けてくれる存在でした。きっと遊謙も子どもたちに慕われ、村人から尊敬される人物だったでしょう。もしかしたら、大野九郎兵衛の伝承は、遊謙への尊敬と彼の謎の多い人生が重なり生まれたものなのかも知れません(終わり)。



林遊謙の墓(松岸寺)

初公開

新島襄関連資料特別展示

安中市在住の星野照夫氏と佐藤佳丈氏が所蔵する新島襄関連資料をふるさと学習館常設展示にて期間限定で展示します。この機会にぜひ足を運びください。

展示期間▼平成26年3月31日(月)まで

場 所▼安中市学習の森ふるさと学習館

開館時間▼午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

入館料▼一般100円 高校生以下無料

展示資料

- ・高嶋流起請文(新島襄花押血判あり)【星野照夫氏所蔵】
- ・新島襄自記筆署名入り扇【佐藤佳丈氏所蔵】
- ・はがき(山本覚馬伊勢時雄より)【佐藤佳丈氏所蔵】
- ・新島みよ(新島襄姉)書状【佐藤佳丈氏所蔵】
- ・佐藤まき(新島襄姉)写真【佐藤佳丈氏所蔵】
- ・新島襄家族写真【佐藤佳丈氏所蔵】



新島襄直筆署名入り扇



新島みよ(新島襄姉)書状

問い合わせ先▶
安中市学習の森 ふるさと学習館
Tel.027-382-7622 Fax.027-382-7623
Mall.furusato@des.city.annaka.gunma.jp